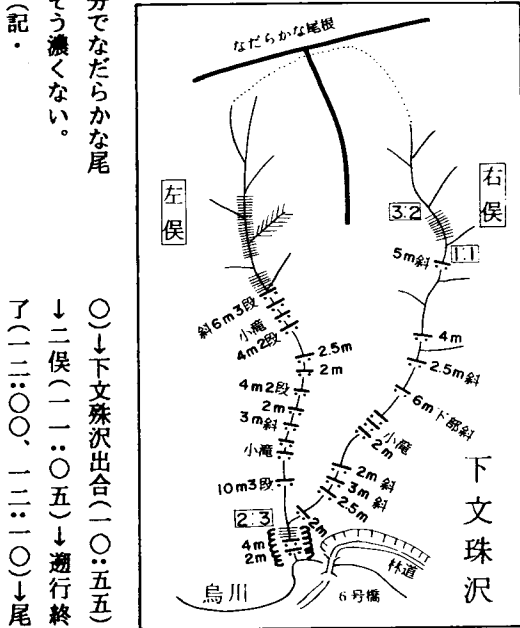


左岸から支沢が入り、四びの滝を越すと、沢は明るくなり造林地に出る。さらに進むと、やがて沢は傾斜を増してくる。約一時間登った所で遊行終了とする。あとは左俣めざしてヤブをこぐ。二〇分でなだらかな尾根に出た。ヤブはそう濃くない。



「タイム」 烏川林道六号橋(一〇:五)

(記)
 ○ ↓下文殊沢出合(一〇:五五)
 ↓二俣(一一:〇五) ↓遊行終了(一二:〇〇、一二:一〇) ↓尾根(一二:三〇)

下文殊沢(仮称)左俣

一九八五年九月二八日

右俣の遊行を終えてから左俣の下

降に移る。尾根のヤブはそう濃くない

く、棄に下降点に移動できた。

すぐに沢の上部に出る。源頭は落葉で覆われていた。多少肌寒く、沢歩きの季節としては少々遅いようである。

下降を開始し、いくつかの支沢を合わせると、沢床はナメとなる。沢全体がナメのようであるが、所々倒木や石がつまっていて、景観がだいなしである。

最初の滝は、左岸からの小沢が合わさる三段になった六びの斜瀑である。あとはもう大きな滝はなく、一、二びの小滝が出てくる程度である。最後に三段の連瀑となったのがせめてものなぐさめであった。

右俣を合わせ、烏川との出合まで降りて下降終了となる。

(記)
 「タイム」 下降開始(一二:四〇) ↓

モンガク沢

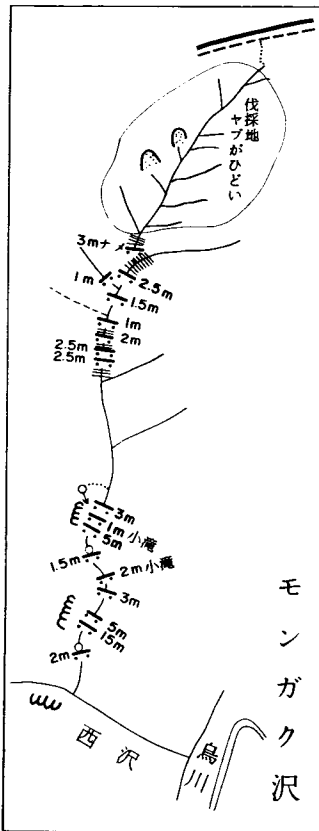
上

一九八二年七月一九日

下り始めて一〇分程すると、ヤブがひどくなってくる。伐採跡地である。背丈程のヤブが前進を妨げる。一時間悪戦苦闘して、やっと抜け出した。すぐに二俣。小休止してヤブこぎの疲れの回復に努める。

二俣前後の小滝が続く。少し間を置いてF5三俣。ここは右岸をアップザイレンにて降れる。すぐ下のF4は、左岸をクライミングダウン。初心者である白石、佐藤にはアップザイレンにて下降させる。少し下って、両岸がガケになった所にF2、F1がある。ここが地図

上の滝記号がある所だ。F2は、右岸をアップザイレン。F1はクライミングダウンできそうにも思えたが、右岸をアップザイレンにて降れる。この二つの滝を一緒に捲く踏跡が左岸についているので、これを使う方



モンガク沢の下降